

(様式2)

教職員研究グループ活動状況報告書

| | | | |
|-------------|--------------------------|---------------------------|----|
| 代表者の所属・職・氏名 | 伊丹市立伊丹特別支援学校 教諭 吉田 紀子 | 研究グループ名 よりよい指導・支援を考える会 | 14 |
|-------------|--------------------------|---------------------------|----|

研究テーマ分類番号 (15)

(1) 研究テーマ

支援を必要とする子どもたちへの指導・支援方法を見いだすために
～ 心理的側面から指導・支援について考える ～

(2) 研究経過及び具体的な取組

6月27日 今年度の研究計画について

- ・実施場所及び参加人数：伊丹市立伊丹特別支援学校センター室 8名
- ・内容

今年度の研究の具体的な進め方、事例検討の方法や学習会の内容について話し合った。

7月22日 事例検討会

- ・実施場所及び参加人数：伊丹市立伊丹特別支援学校センター室 6名
- ・講師：臨床発達心理士
- ・内容

今年度になってから、遅刻や欠席の日数が増えている特別支援学級に在籍する小学校2年生男子について、事例検討を行った。対象児童の発達段階、認知や感覚に関する特性、生育歴、家庭環境、学校での学習状況や対人関係などについての情報を整理し、登校の記録を参考にしながら、どのような時に遅刻や欠席をしているのかについて考察した。また、講師より、対象児童と関わる時の配慮事項や保護者への提案内容などについての助言を受けた。

- ・成果と課題

対象児童の情報を整理し、講師からの助言を受けて、今後の指導・支援の方向性を検討することができた。家庭での生活についての提案をする場合は、母親の負担が重くならないような内容にすることが課題である。

8月22日 学習会

- ・実施場所及び参加人数：伊丹市立伊丹特別支援学校センター室 7名
- ・講師：臨床発達心理士
- ・内容：親子の愛着関係について
- ・成果

講義を通して、親子の愛着形成に影響を及ぼす様々な要因について理解を深めることができた。また、幼少期の愛着形成に何らかの問題があった場合、その後の成長過程において、コミュニケーションや対人関係、社会性などの発達に影響を及ぼすこともわかった。

具体的な事例検討をする場合、対象児の生育歴、家庭環境、親子関係などをふまえながら指導・支援の方向性を考える必要があると、あらためて感じた。

9月29日 事例検討会

- ・実施場所及び参加人数：伊丹市立伊丹特別支援学校センター室 6名
- ・講師：臨床発達心理士
- ・内容

昨年度より教室に入ることを嫌がるようになった中学校2年生男子について、事例検討を行った。対象生徒のコミュニケーションや社会性の発達段階、認知や感覚に関する特性、学校での交友関係、学習状況などについての情報を整理し、教室に入ることを嫌がるようになった背景について考察した。また、講師より助言を受けながら、今後の指導・支援の方向性を検討した。

- ・成果と課題

講師より、対象生徒のコミュニケーションや社会性の発達段階を考慮した関わりや、認知や感覚に関する特性の理解について助言を受け、今後の対象生徒への指導・支援の方向性を検討することができた。今後、在籍校でケース会議を行い、具体的な取り組み内容や校内体制について検討していくことが課題である。

11月7日 事例検討会

- ・実施場所及び参加人数：伊丹市立伊丹特別支援学校センター室 6名
- ・講師：臨床発達心理士
- ・内容

対人関係のトラブルが多く、情緒的に不安定になることが多い小学校1年生男子について、事例検討を行った。対象児童の認知やコミュニケーション、社会性の発達段階、学校での交友関係、生育歴、家庭環境、親子関係などについての情報を整理し、どのような状況でトラブルが起きたり、情緒的に不安定になったりすることが多いのかを考察した。また、講師より、対象児童と関わる時の配慮事項や保護者への提案内容などについての助言を受けた。

- ・成果と課題

対象児童についての情報を整理し、講師から助言を受けて、今後の指導・支援の方向性を検討することができた。その中で、家庭でのトラブルが、学校での心理状態に影響を及ぼしている可能性があり、その逆も考えられるので、学校と保護者との連携の重要性を再確認することができた。今後、適切な支援を受けることによって、対象児童が成長していることを保護者に実感してもらい、保護者との連携をさらに強化していくことが課題である。